

2. 感染対策の原則

上山 伸也：川西市立総合医療センター感染症科/感染制御室

感染対策に対するモチベーションは人それぞれである。しかし感染対策が重要であり、すべての医療従事者が実施するべきであるという考え方に対して、異論を持たれる方はおそらく少数であろう。

近年薬剤耐性菌が世界的に問題となっており、適切な対策を取らない場合、2050年には現在のガン死を超える患者が薬剤耐性菌で命を落とすことになるという試算が出ている。それを受けて日本でも2016年に薬剤耐性対策アクションプランが閣議決定されたが、これその事実をどれほどの医療従事者がご存じだろうか。

現在はCOVID-19に対して過剰とも言える感染対策が行われているが、ややバランスを欠いている対策多く見受けられる。COVID-19に対する過剰な感染対策は行われているのに、薬剤耐性菌に対する意識は極めて低いと言わざるを得ない。感染対策が現在アンバランスに行われているのだ。

これはCOVID-19は自分自身の問題であり、直接自分の身に降りかかってくる問題だが、薬剤耐性菌については自分自身の問題であると認識しにくいいため、モチベーションが上がらないのだ。

本講演では感染対策の原点に戻り、何に対して、何のために、そしてどのように感染対策を行うべきなのかを明らかにしつつ、皆様の感染対策に対する動機づけとなるようなお話をさせていただきたいと考えている。